

資料館だより

2024.4.1 No.122 (季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館

あらたに制作された証言映像を公開

ハンセン病資料館では回復者等の証言映像を制作し、展示室やYouTubeで公開してきました。この度、あらたに多磨全生園入所者の平沢保治さん、長島愛生園入所者の宮崎かづゑさん、退所者の柴田すい子さんの3人の証言映像を当館YouTubeチャンネルで公開しました。

平沢さんはこれまで語り部としてののちの大切さを訴えてきました。子どもたちが療養所で生きてきた自分の体験や想いを聞き、それを家で両親にすることによって啓発が広がっていることが嬉しいと言います。10歳で入所して以来、長島愛生園で暮らしている宮崎さんは、自身の健康、戦争、障がいなど多くの困難を乗り越えてきました。「ここでの生活を無駄にはしてはいけない」という思いを語ってくれました。

柴田さんは、病気にかかったただけなのに、社会で生きられないような隔離政策が取られたことを知ってもらいたい、自分の考えを持って主張できるような人間に一人一人がならないと、いい世の中にならない、と言います。

3人それぞれの思いがこもった証言（平沢さんと柴田さんは約10分の証言が2本、宮崎さんは20分強の証言が1本）を、ぜひとも当館のYouTubeチャンネルからご視聴ください。

▶ YouTubeはこちら ▶



平沢保治さん



宮崎かづゑさん



柴田すい子さん

図書室より



今回ご紹介するのは、DVD「荒野に希望の灯をともし～医師・中村哲 現地活動35年の軌跡～」(ペシャワール会/日本電波ニュース社 2021年 88分)です。中村さんは医師としてハンセン病の治療をするためパキスタン・アフガニスタンに赴きました。ところが現地に赴くと、干ばつと戦乱で苦しんでいる人が多く、水と食べ物が圧倒的に不足していました。そこで中村さんは、打開策としてこの地に井戸を掘り、自らショベルカーを乗りこなし水路を築きました。作物ができなかった荒地を、現地の人々と共に緑の大地へと変えていったのです。

この作品は中村さんの奮闘を追ったドキュメンタリー映画です。彼は通訳を通してではなく、現地の言葉でコミュニケーションをとりました。また子どもたちが自分のことを怖がらないようにと、現地の人に合わせてパコールという帽子をかぶり、髭を生やしました。そんな中村さんの姿を、実際の映像で観て聴いて、感じていただけたらと思います。改めて、命の重さ・大切さを知ることのできるお薦めの一作！本作品は貸出はできませんが、館内でご視聴いただけます。

図書室では他にも中村哲さんに関する本や、彼が書いた本をご覧いただけます。本は貸出できますので、ぜひこれを機にご利用いただけたらと思います。(武藤久美)

国立ハンセン病資料館 利用案内

■開館時間 9:30～16:30

■入館 無料

■休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■交通
 ・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分(「ハンセン病資料館」下車)
 ・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分(「ハンセン病資料館」下車)
 ・JR武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981 URL <https://www.nhdm.jp/>

出張講座案内 団体見学会案内



『研究紀要』第11号のご案内

『国立ハンセン病資料館 研究紀要』第11号が3月31日付で発行されました。同誌は、国立ハンセン病資料館、重監房資料館、社会交流会館等の職員が、事業にともなう調査・研究の成果を発表したり、事業の目的に即した論考を発表したりする発行物です。今号の内容は以下のとおりです。

- ①【論文】木村哲也(国立ハンセン病資料館)
「詩人・永瀬清子とハンセン病問題」
- ②【論文】西浦直子(国立ハンセン病資料館)
「趙根在が写した「その人」をよむ一沢田二郎の肖像写真をめぐって」
- ③【論文】原田寿真(菊池恵楓園歴史資料館)
「外に出ていた入所者たち—国立療養所菊池恵楓園における「隔離の壁」の果たした役割を巡って—」
- ④【論文】吉國元(国立ハンセン病資料館)
「多磨全生園を描く—画家・氷上恵介の活動と作品—」
- ⑤【報告】木下浩・澤田大介・鈴木陽子ほか
「沖縄戦の記憶をつなぐ場・記録・一人—沖縄戦体験継承視察報告—」



①は、岡山県在住の詩人・永瀬清子とハンセン病問題との関わりを初めてトータルに論じ、その意義を考察したものです。②は全国のハンセン病療養所を訪問して撮影を行った趙根在が残した写真資料を取り上げ、撮る側と撮られる側それぞれのパーソナリティや両者の関係性をふまえながら、写真資料の新しい解釈を試みています。③は菊池恵楓園の入所者がしばしば園の外に出ていたことに着目し、同園の「隔離の壁」や入所者にとっての隔離の意味を問い直そうとするものです。④は2024年企画展「絵ごころでつながる—多磨全生園絵画の100年」のための調査研究の成果の一部で、同展で紹介している氷上恵介の活動と作品について論じています。⑤は国立ハンセン病資料館および社会交流会館等の有志で組織された「ハンセン病語り部機能継承勉強会」メンバーが実施した、非体験者による沖縄戦ガイド等に関する視察報告です。

本誌は、在庫があるバックナンバーを含めて、当館受付にて無料で配布しています。また、着払いでの発送も行っています。ご希望の方はお電話等でお申し込みください。関心のある方は、ぜひお手に取っていただけますと幸いです。当館HPでも公開しております(右記QRコード)。



(大高俊一郎)

2024年企画展「絵ごころでつながるー多磨全生園絵画の100年」が開幕しました。ここでは本展の関連イベントと催しをご案内します。
①朗読会、②講演会、③トークイベント、⑤絵画教室及び、⑦ワークショップは当館のHPにて申込受付中です。それぞれ定員になり次第受付を締め切らせていただきますので、あらかじめご了承ください。

(吉國元)



イベント情報 (各定員100名)

1 朗読会
「描き手の言葉を読む」

日時 2024年5月5日(日・祝)
14:00-15:30

朗読 あおやぎ なつみ
青柳菜摘 (アーティスト)

会場 当館映像ホール

2 講演会
「世の途中から隠され、再び現れてきたことー義足と絵画」

日時 2024年6月1日(土)
14:00-15:30

講師 きのしたなおゆき
木下直之 (静岡県立美術館館長)

会場 当館映像ホール

3 トークイベント「100年の絵画史を展示すること」

日時 2024年7月13日(土)
14:00-15:30

講師 かねこまき
金子牧 (カンザス大学美術史学部准教授) × 吉國元 (本展担当学芸員)

会場 当館映像ホール



国立ハンセン病資料館
公式Instagram
フォローは
こちらから

関連の催し

4 「いのちの森を描く」
カイズケン絵画展

会期 3月2日(土)から6月2日(日)

会場 当館1階ギャラリー

5 絵画教室「多磨全生園を描こうーあおぞら絵画教室」

日時 4月29日(月・祝) 10:00-15:00

講師 吉國元 (本展担当学芸員)

会場 多磨全生園内 全生学園跡

定員 先着12名 (保護者、介助者等の同伴可)

6 「多磨全生園を描こうーあおぞら絵画教室」
成果発表展

会期 6月5日(水)から7月31日(水)

会場 当館1階ギャラリー



企画展会場の様子

関連イベントの
詳細については
こちらから



7 ワークショップ
「多磨全生園の昔を描きおこす」

日時 7月27日(土) 10:00-15:00

講師 吉國元 (本展担当学芸員)

会場 当館1階ロビー

定員 先着15名 (保護者、介助者等の同伴可)

8 「多磨全生園の昔を描きおこす」
成果発表展

会期 8月2日(金)から9月1日(日)

会場 当館1階ギャラリー

9 展示解説「担当学芸員によるギャラリートーク」

日時 4月27日(土)、5月25日(土)、6月22日(土)、7月20日(土)、8月10日(土)、8月24日(土)、9月1日(日) 各回14時から14時40分

会場 当館企画展示室・事前予約不要

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1
	休	企画展(3/2~9/1)																		講
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
	休						朗	休					休							
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
	休			休			休	休		休			休	休						
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
	休					★	休	休				★	休	休		休			★	
28	29	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
	絵	休					休	休					休	休						
													30							

休：休館日 休：図書室休室日 絵：絵画教室 朗：朗読会 講：講演会
企画展開催 ★：企画展ギャラリートーク